おいしさのみなもと

FEED ONE

2022年3月期第2四半期
決算説明会

2021年11月30日

フィード・ワン株式会社

東証1部　証券コード：2060

サマリー

2022年3月期上半期 実績

畜産飼料の販売価格値上がりが寄与し、**大幅増益達成**

2022年3月期 予想

販管費増加及び畜産飼料・水産飼料の原材料高騰懸念から減益の**期初予想は据え置き**

第3次中期経営計画 Make the leap!2023

今年度より第3次中期経営計画スタート
計画に基づいた施策を着々と実行。一部は前倒しに

第3次中期経営計画の位置づけと基本方針

第3次中期経営計画は、第2次中計にて強化した事業基盤をフル活用した収益拡大の実現と、持続的な成長を可能にするための更なる基盤構築、と位置付けます

Make the leap !

基本方針

経営統合の総仕上げ
～真のリーディングカンパニーへ!

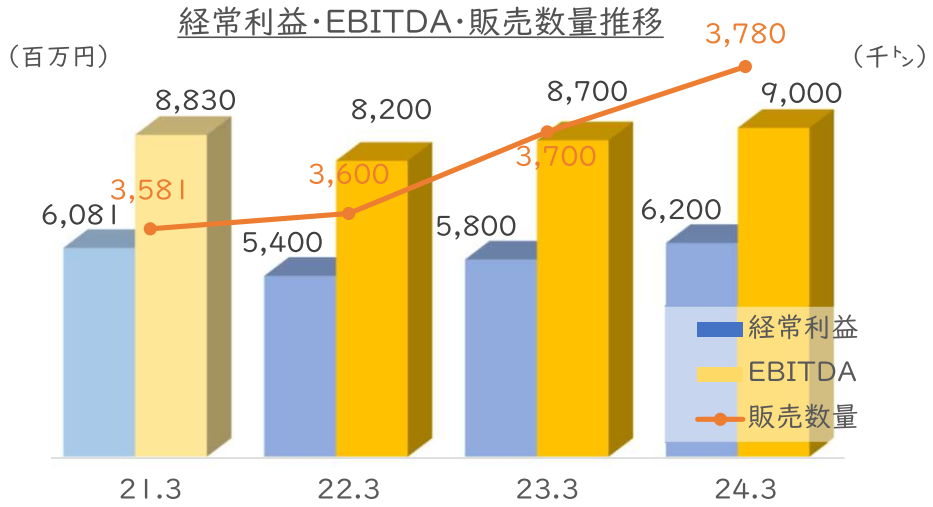
基本戦略

1. コア事業である「畜産飼料」の更なる収益力強化
2. 「水産飼料」「食品事業」「海外事業」の成長加速
3. ESG経営の推進と基盤強化

第3次中期経営計画の定量計画

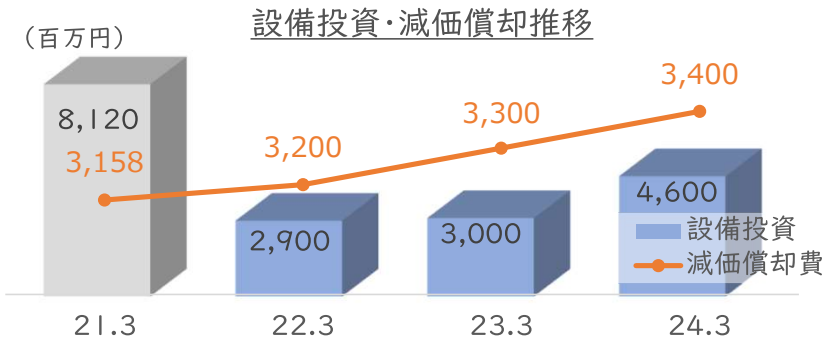
第3次中期経営計画は、設備投資を継続しながら、最終年度において利益の最大化と効率的な事業拡大を図る

	21.3期実績	24.3期目標
飼料の販売数量	3,581千トン	3,780千トン
経常利益	6,081百万円	6,200百万円
ROE	11.0%	9.0%



（参考）

EBITDA	8,830百万円	9,000百万円
設備投資	3次中計総額 10,500百万円	



説明項目

■2022年3月期 上半期実績

■2022年3月期 業績予想

■上半期の取り組み状況とトピックス

2022年3月期 上半期実績

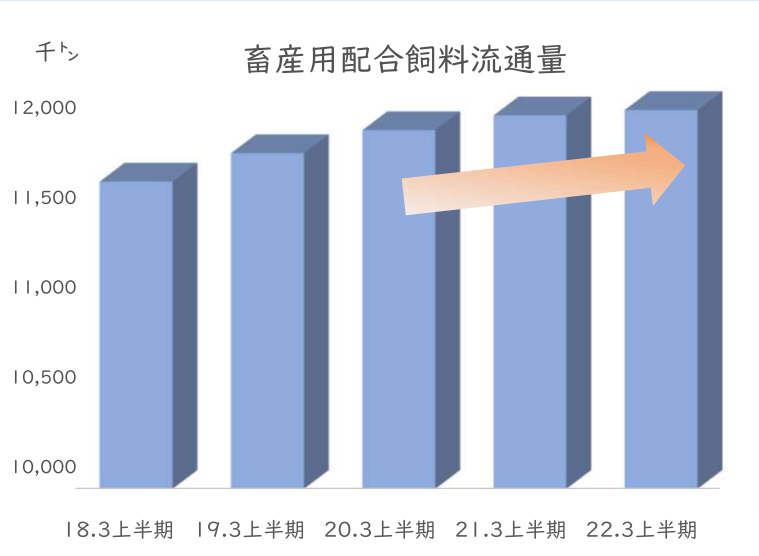
2022年3月期 上半期の事業環境

新型コロナの影響

- 巣ごもり需要により、豚肉・鶏肉の消費は好調
- 外食産業・業務用の需要減少により、鶏卵・牛乳消費が減少

家畜伝染病の影響

- 鳥インフルエンザの流行により飼養羽数減少も、段階的に回復傾向
- 豚熱ワクチン接種により鎮静化、飼養頭数は回復傾向も予断許さず



→畜産用配合飼料流通量は
横ばいから微増で推移

当社への影響

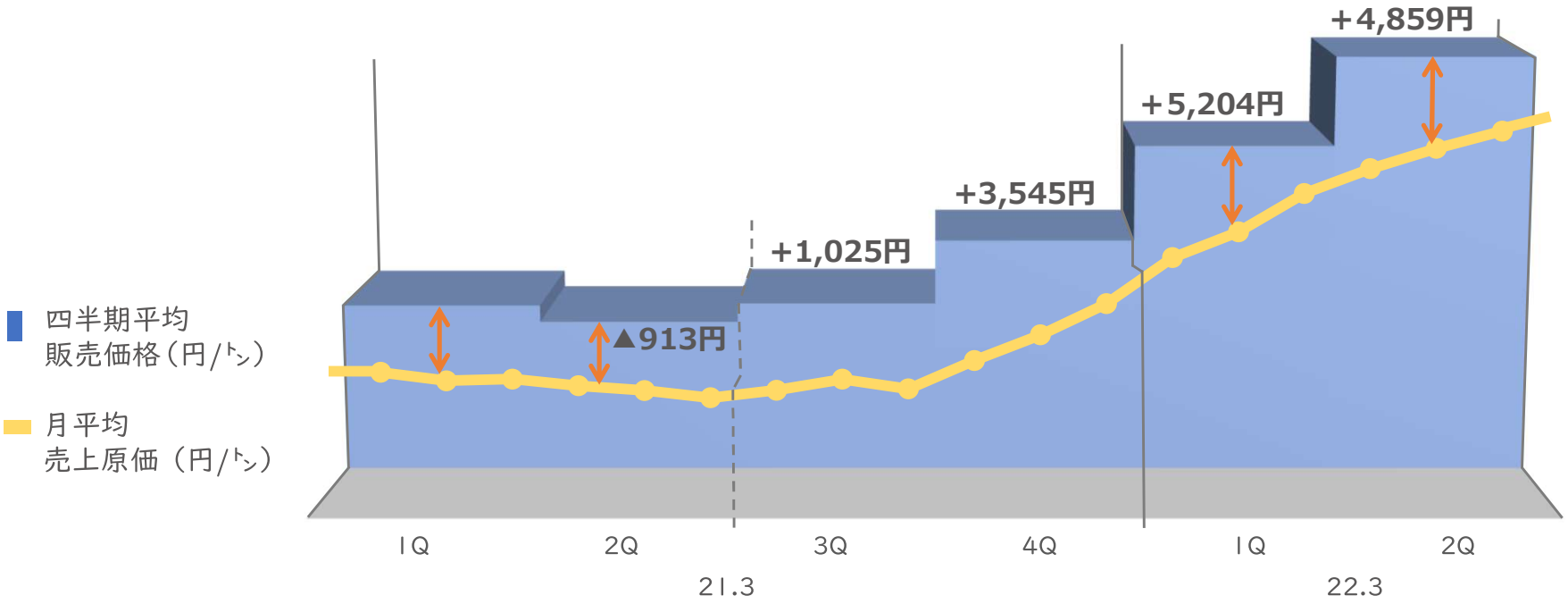
- 飼料事業 配合飼料流通量は横ばいからやや増加で推移 →影響は軽微
- 食品事業 新型コロナ・家畜伝染病の影響で相場高騰により仕入原価増加 →減益

グループ全体への影響は
軽微

畜産飼料の販売価格と売上原価推移

販売価格の上昇額が売上原価を上回り、粗利益額が増加

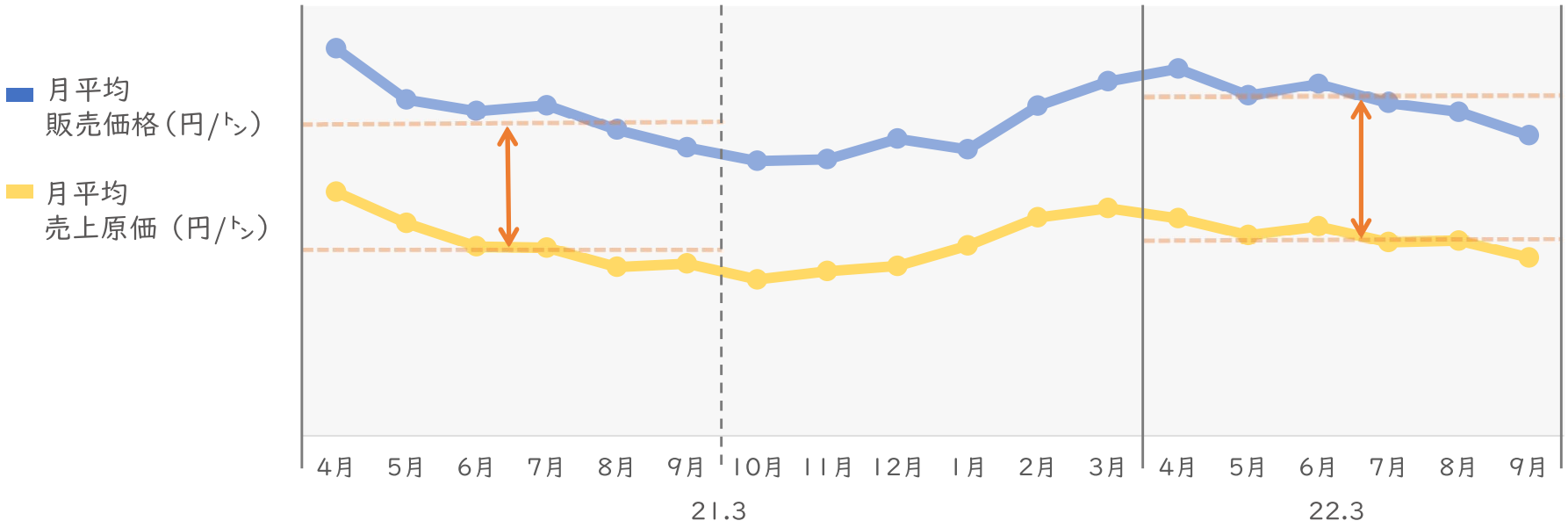
- ▶ 販売価格は原材料相場の変動に準じて、四半期毎に改定を行う
- ▶ 製品原価における原材料費率は8割強、原材料の5割は輸入とうもろこしが占める
- ▶ 輸入原料の価格動向に基づき、配合飼料価格安定制度による補填金の発動判定が四半期毎に行われる



水産飼料の販売価格と売上原価推移

販売価格の上昇額が売上原価を上回り、粗利益額が増加

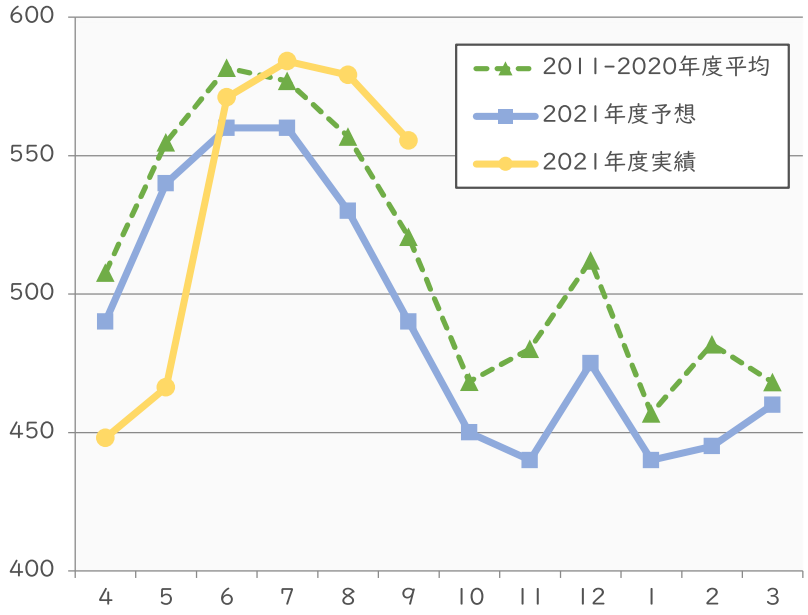
- ▶製品原価における原材料費率は8割強
- ▶原材料の4割強は魚粉が占める
- ▶定期的な販売価格の改定は無く、魚粉相場の大きな変動等に準じて適宜改定を行う



畜産物相場の状況

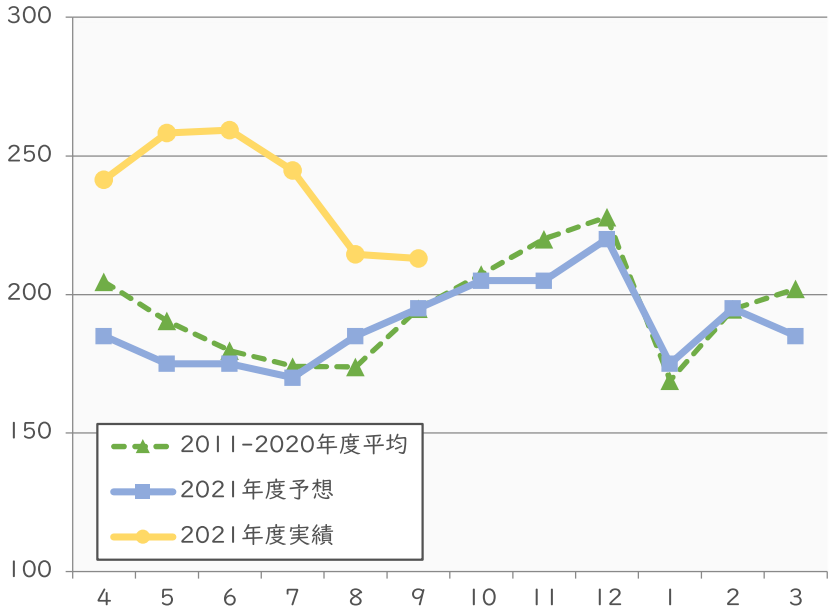
豚枝肉・鶏卵相場共に予想より高値で推移

豚枝肉卸売価格（3市場・上物）（円/kg・税抜）



（出所：農林水産省「食肉流通統計」）

鶏卵卸売価格（全農：東京M）（円/kg・税抜）



（出所：JA全農たまご㈱調べ）

2022年3月期上半期 決算概要

（百万円、%）

	2021.3期 上半期		2022.3期 上半期		
		構成比		構成比	前年同期比
売上高	103,013	100.0	117,858 ※	100.0	+14.4
売上原価	92,504	89.8	105,656	89.6	+14.2
販管費	7,967	7.7	8,797	7.5	+10.4
営業利益	2,541	2.5	3,404	2.9	+34.0
経常利益	2,718	2.6	3,914	3.3	+44.0
親会社株主に帰属する当期純利益	1,847	1.8	2,829	2.4	+53.2

※ 2022.3期 上半期_収益認識に関する会計基準の適用後

前年同期比

- 売上高　：収益認識に関する会計基準の適用により減少も、飼料事業で畜産飼料価格値上げにより増収
- 営業利益　：原材料費の増加と配合飼料価格安定制度の積立金（販管費）増加も、粗利益増加により増益
- 純利益　：営業外収益増（水産物コロナ対策補助金※ +260）、特別利益増（北九州畜産工場企業立地促進補助金+170）により増益※国産農林水産物等販路多様化緊急対策事業

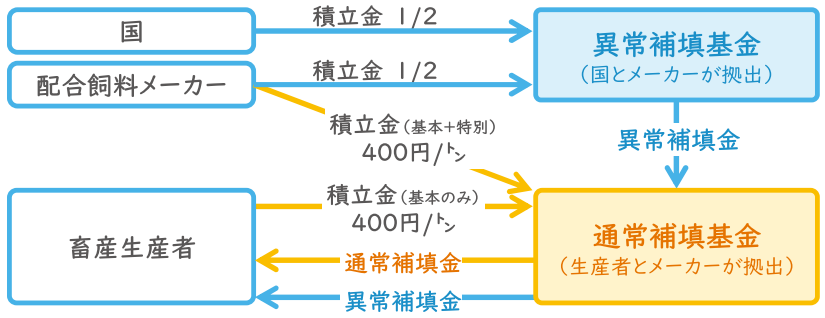
配合飼料価格安定制度と販管費詳細

配合飼料価格安定制度の現状

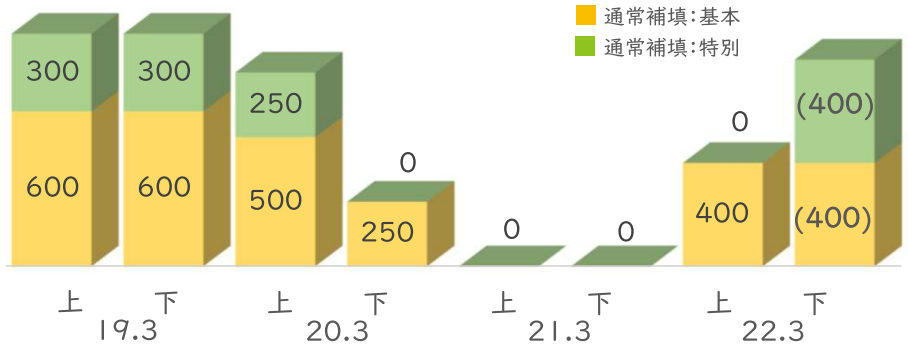
▶飼料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和する目的

▶近年は基金の発動が少なかったため財源が積みあがり、積立金減額傾向が続いていたが、補填金発動により再開

制度の仕組み（例:2022年3月期上半期）



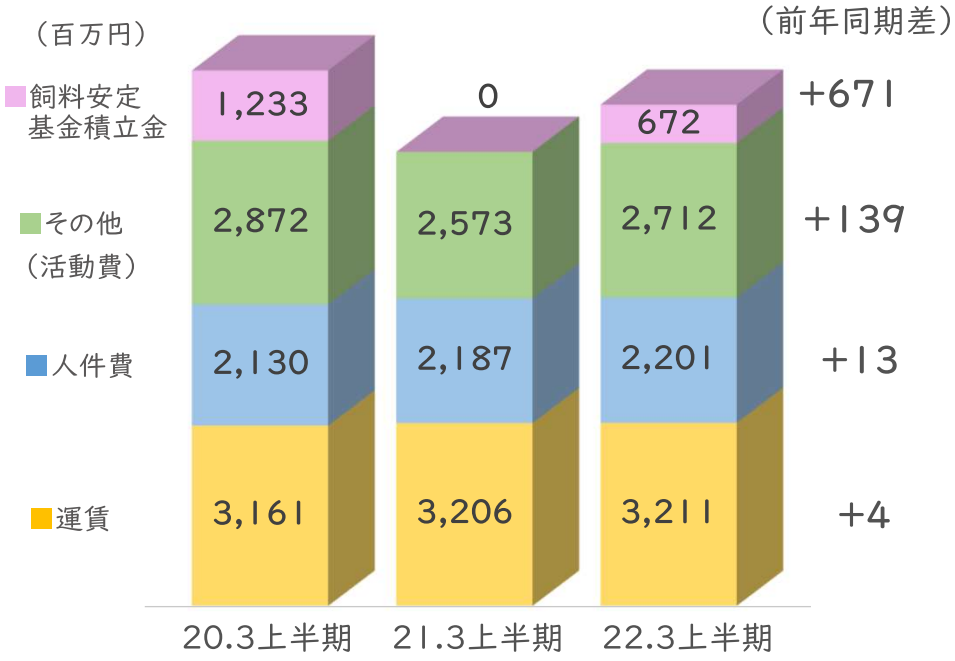
積立金推移（配合飼料メーカー）



販管費

▶配合飼料価格安定制度の積立金発生により増加

▶その他_研究費・次期基幹システム構築費用により増加



2022年3月期上半期 セグメントの状況

（百万円，％）

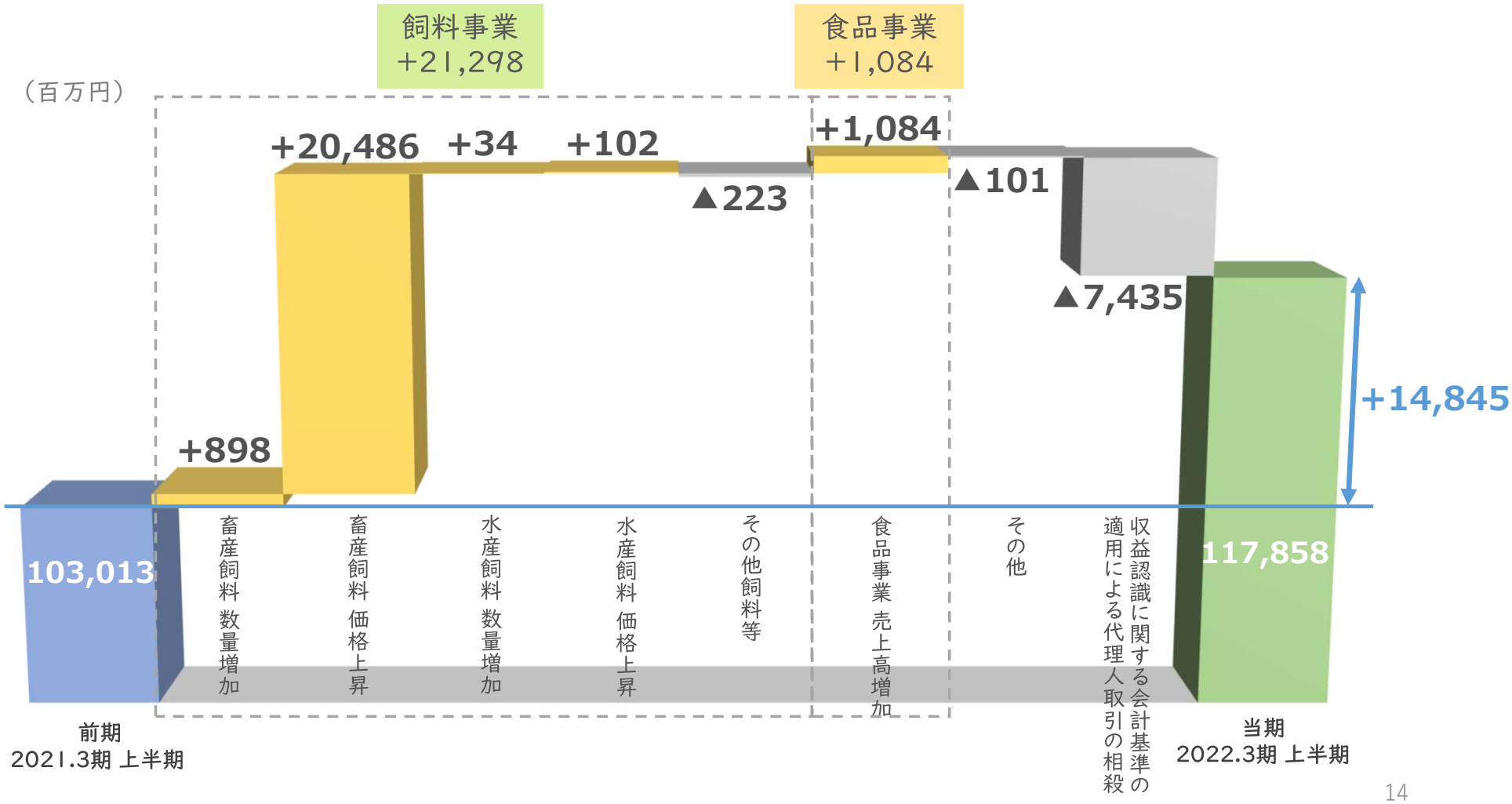
		2021.3期上半期	2022.3期上半期		増減額	前年同期比
飼料事業	売上高	77,315	97,641	※	+20,326	＋26.3
	ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益	3,390	4,656		+1,266	＋37.3
食品事業	売上高	24,381	19,005	※	▲5,376	▲22.1
	ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益	81	▲164		▲245	赤字転落
その他	売上高	1,317	1,212	※	▲105	▲8.0
	ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益	161	138		▲23	▲14.3

※2022.3期 上半期_収益認識に関する会計基準の適用後

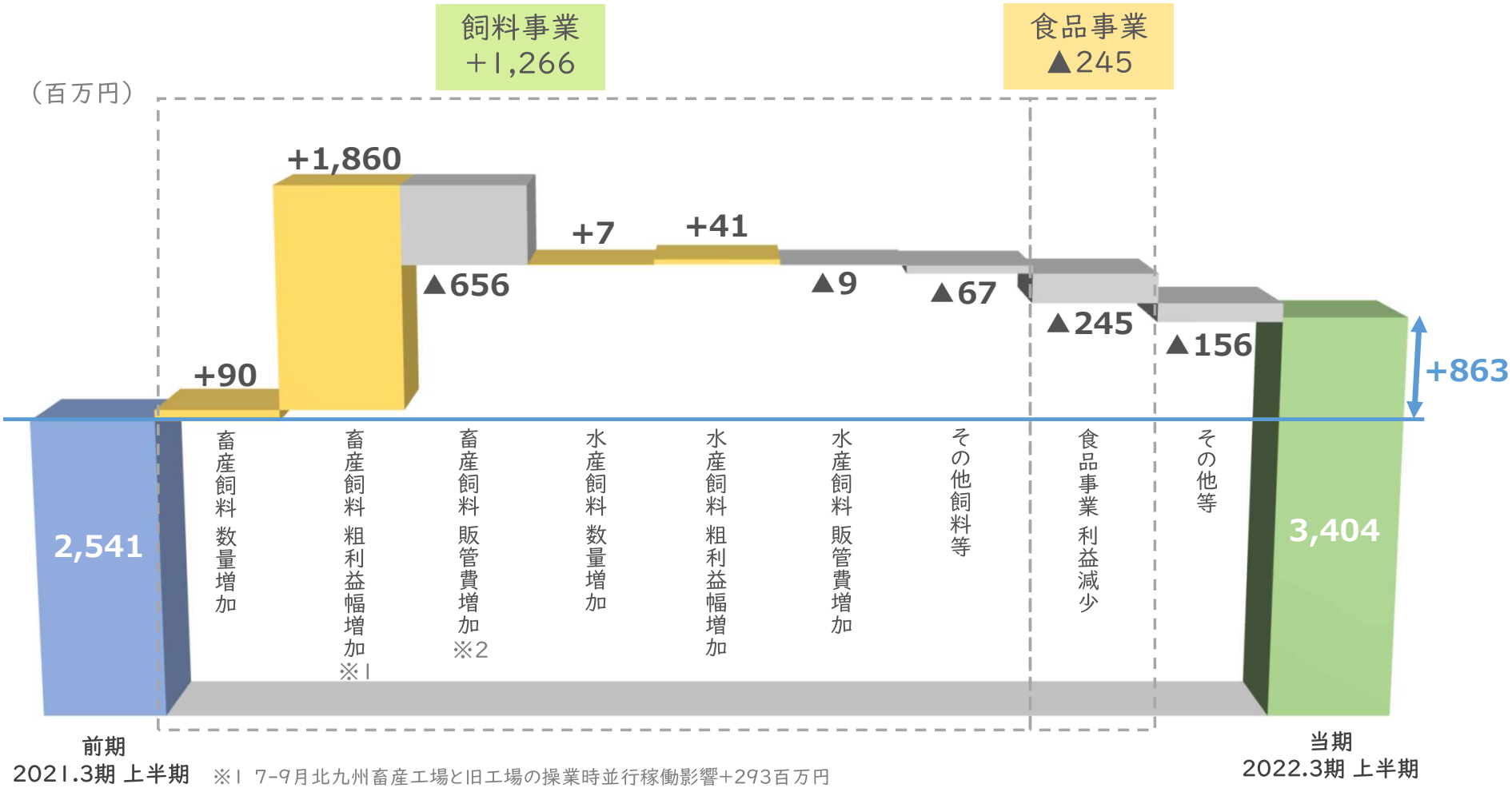
（万ﾄﾝ、％）

販売数量	2021.3期上半期	2022.3期上半期	前年同期比	コメント
畜産飼料	169.8万ﾄﾝ	170.7万ﾄﾝ	+0.6	採卵鶏用▲1%、ブロイラー用▲1%、豚用▲0%、牛用＋4%
水産飼料	4.8万ﾄﾝ	4.8万ﾄﾝ	+0.7	海水魚用▲1%、淡水魚用＋18%

売上高 増減要因


飼料事業
+21,298
食品事業
+1,084
（百万円）
+898
+20,486
+34
+102
▲223
+1,084
▲101
▲7,435
+14,845
103,013
117,858
畜産飼料 数量増加
畜産飼料 価格上昇
水産飼料 数量増加
水産飼料 価格上昇
その他飼料等
食品事業 売上高増加
その他
収益認識に関する会計基準の適用による代理人取引の相殺
前期
2021.3期 上半期
当期
2022.3期 上半期

営業利益 増減要因



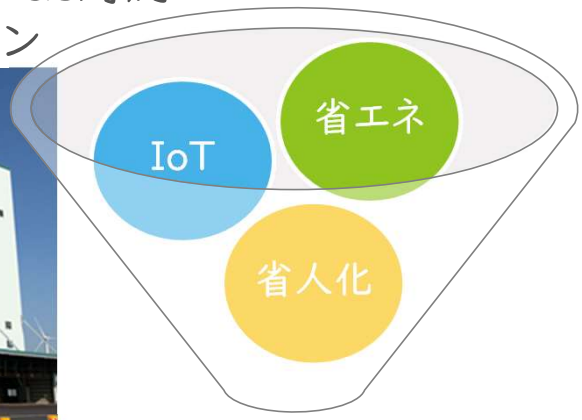
※1 7-9月北九州畜産工場と旧工場の操業時並行稼働影響+293百万円

※2 運賃増加▲51百万円、人件費増加▲37百万円、飼料安定基金積立金増加▲668百万円、門司飼料割増償却差額等+127百万円

北九州畜産工場 稼働状況

2020年7月出荷開始から1年経過

フィード・ワンが実現するSDGs対応
の次世代 製造ソリューション



▶ システムのフレキシビリティ

⇒ iPadで工場の制御が可能に。例えば、設備の不具合も現場で
各機器の起動や停止が可能になり製造復旧の早期化へ

▶ 最新設備とシステムを連動、工程別に電力量・蒸気量を管理

⇒ 使用するエネルギー効率の改善

▶ 24時間無人自動出荷設備導入と作業エリア集約

⇒ 作業性効率UPにより人員削減

新工場と旧工場比較

2022.3期1Q-2021.3期1Q比較

製造数量 9%増加

エネルギー効率 17%改善
原油換算原単位

従業員数 28%効率化
協力会社従業員含む

2022年3月期 業績予想

2022年3月期 業績予想 ～期初予想から変更なし

（百万円、%）

	2021.3期		2022.3期		
		構成比		構成比	前期比
売上高	214,120	100.0	215,600 ※	100.0	+0.7
売上原価	192,163	89.7	192,400	89.2	+0.1
販管費	16,284	7.6	18,200	8.4	+11.8
営業利益	5,672	2.6	5,000	2.3	▲ 11.9
経常利益	6,081	2.8	5,400	2.5	▲ 11.2
親会社株主に帰属する当期純利益	4,438	2.1	3,700	1.7	▲ 16.6

期初設定前提：飼料安定基金積立金は400円/ﾄﾝと想定

※ 2022.3期_収益認識に関する会計基準の適用後

（万ﾄﾝ、%）

販売数量	2021.3期	2022.3期		
			前年同期比	コメント
畜産飼料	349万ﾄﾝ	350万ﾄﾝ	+0.3	採卵鶏用▲2%、ブロイラー用+2%、豚用+2%、牛用+1%
水産飼料	9.6万ﾄﾝ	10万ﾄﾝ	+4.2	海水魚用+8%、淡水魚用+2%

2022年3月期 セグメント別予想 ~期初予想から変更なし

（百万円，%）

		2021.3期	2022.3期			
					増減額	前年同期比
飼料事業	売上高	162,180	173,100	※	+10,920	+6.7
	ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益	7,557	6,500		▲1,057	▲14.0
食品事業	売上高	49,259	39,800	※	▲9,459	▲19.2
	ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益	150	500		+350	+233.3
その他	売上高	2,681	2,500	※	▲181	▲6.8
	ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益	346	300		▲46	▲13.3

※2022.3期_収益認識に関する会計基準の適用後

期初予想据え置きの背景

- 飼料事業　：畜産飼料・水産飼料ともに原材料の高騰による粗利益の悪化が想定
  畜産飼料の配合飼料価格安定制度積立金増加により、期初予想より7億円ほど増加の見込み
- 食品事業　：下半期 豚枝肉相場の低下が見込まれ、収益改善の見込み

上半期の取り組み状況とトピックス

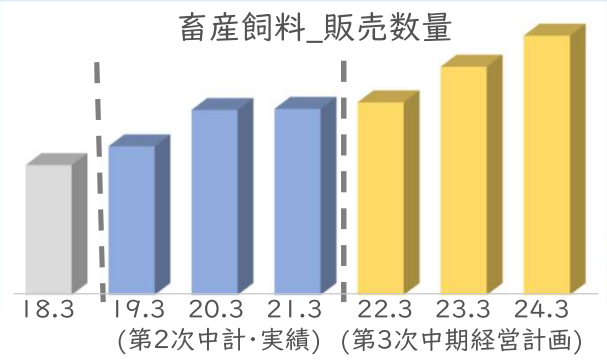
上半期取り組み① 畜産飼料

3次中計_目標

増産体制構築と研究開発を通じて
畜産業界の発展に貢献

数値目標

畜産飼料
販売数量
105%(21.3期比)



①牛用飼料の製造設備増設と販売数量21.3期比107%へ

- ■苫小牧飼料 フレークライン増設 145%へ 22.3期 稼働予定
- ■釧路飼料 フレークライン増設 125%へ 23.3期 稼働予定

②顧客・時代のニーズをとらえた研究開発(製品・技術)
③IoTを活用した業務プロセスの改善

上半期の状況

製造力×サービス

苫小牧飼料 フレークライン増設

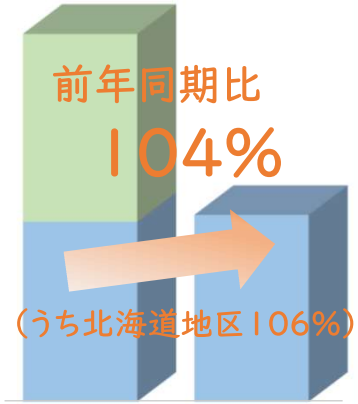
製品ベースで108%増産

2021年8月稼働開始

トータル
コンサルティング
サービス

ゲノム解析サービス等
高い技術力

牛用販売数量



今後の方針

計画) 釧路飼料 フレークライン増設 23.3期 稼働
→計画前倒し着工開始、年度内の稼働を目指す!

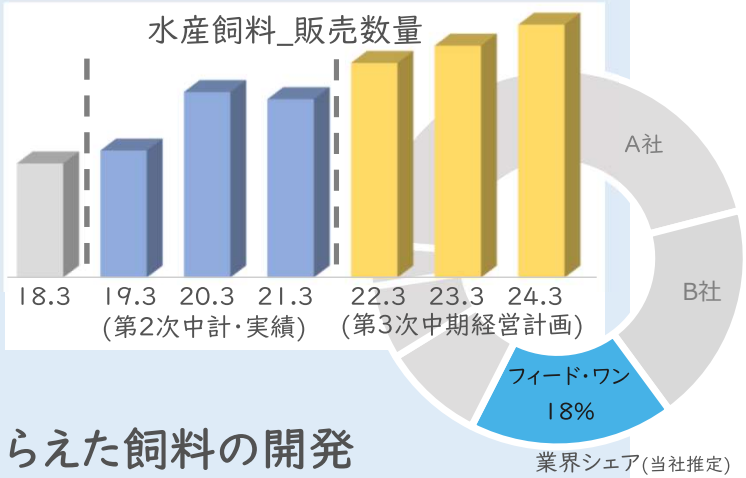
上半期取り組み② 水産飼料

3次中計_目標

品質No.1製品とサステナブル飼料を
武器に業界トップシェアを目指す

数値目標

水産飼料
販売数量
115%(21.3期比)



①顧客ニーズをとらえた飼料の開発
②サステナブル飼料の開発・拡販

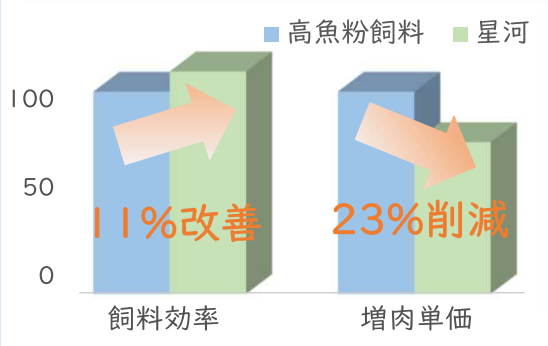
上半期の状況

低魚粉飼料 第2弾

鱒EP 星河(せいか) 新発売
山梨県水産技術センター 共同開発

粗脂肪含量UP
アミノ酸バランス補正

飼料効率改善・
増肉単価※削減により
ｺｽﾄﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽに優れる
※魚が1kg増えることに対する飼料価格比率



環境負荷低減

糞を凝集し水質改善、糞中の窒素・リン含量低減

今後の方針

更なる低魚粉・無魚粉飼料の研究・開発
→環境課題に貢献するとともに、数量の拡大を図る

上半期取り組み③ 食品事業

3次中計_目標

コンシューマー商品の充実と
人気商品の増産体制を構築する挑戦の3年

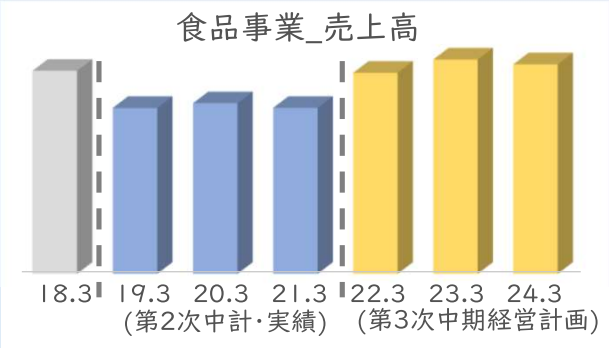
数値目標

食品事業

売上高

110%(21.3期比)

※収益認識基準適用前にて算出



①人気コンシューマー商品の製造体制 再構築の検討

②コンシューマー商品開発・販売

商品開発力

上半期の状況

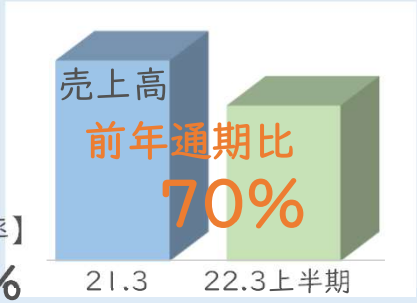
コンシューマー商品の販売状況は順調に進捗

フィード・ワンフーズ㈱

コロナ禍で需要が高い
冷凍新商品を開発・販売

【粗利益に占めるコンシューマー商品比率】

21.3上半期 10% →22.3上半期 18%

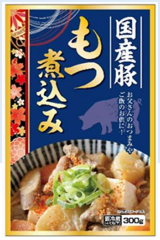


今後の方針

●ニーズをタイムリーにとらえ、従来商品の規格・パッケージを適宜、迅速に対応

●冬場の鍋物需要に向け、新商品の発売

新商品をぞくぞく発売



上半期取り組み④ 海外事業

3次中計_目標

海外事業として管理コストを含めた事業収益の黒字化へ

①ベトナム：KYODO SOJITZ FEED COMPANY LIMITED

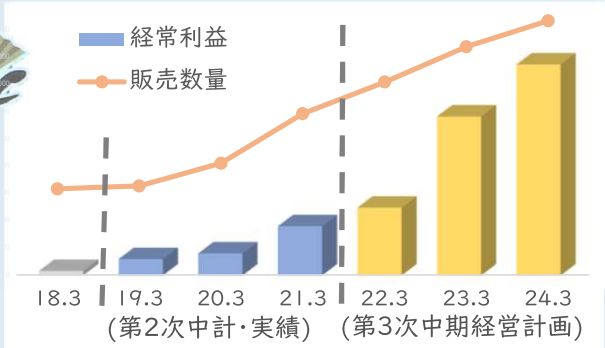
数値目標

販売数量

150%(21.3期比)

経常利益

400%(21.3期比)



上半期の状況 販売数量 前年同期比 93%

・新型コロナによるロックダウンの影響で、稼働確保も製造数量減少
・製造銘柄絞り込みを余儀なくされ、収益率の高い豚用飼料に注力

今後の方針

・ベトナム初となるフレーク設備は2022年3月稼働を目指す
→牛用飼料(フレーク飼料)による販売数量拡大

②インド：NIPPAI SHALIMAR FEEDS PRIVATE LIMITED

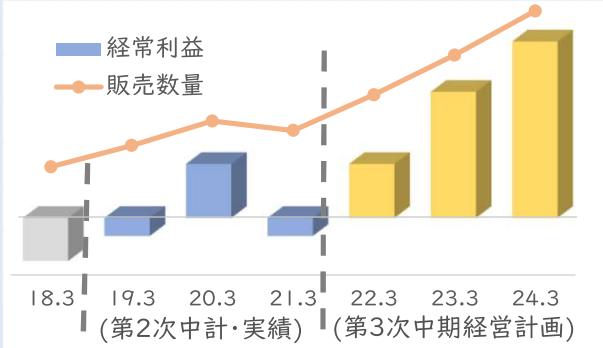
数値目標

販売数量

180%(21.3期比)

経常利益

黒字化定着・拡大



上半期の状況 販売数量 前年同期比 118%

・淡水魚用は西ベンガル州・インド北東部での拡販が奏功し好調
・エビ用はサイクロン影響も、新型コロナから回復あり前年同期比増

今後の方針

・2021年10月より日本人スタッフ現地再派遣
→品質維持・向上、淡水魚用飼料の更なる販売数量拡大

上半期取り組み⑤ ESG経営の推進と基盤強化

FEED ONE

3次中計_目標

①働き方改革の推進
②DX・新事業への取り組み
③ガバナンス強化
④ESG/SDGs体制の構築

取り組み状況

●気候変動リスクへの対応

TCFD提言に則った開示を実施予定
2050年カーボンニュートラルへ積極取り組み開始

→省エネ設備の導入・設備更新
→食品ロス等サステナブル原料を活用した資源循環型社会の実現
→環境負荷物質を低減するサステナブル飼料の研究・開発

三井物産_サービスプラットフォーム「e-dash」への参画

→拠点別にGHG排出量を可視化管理、削減サポートパートナー

●スタートアップ企業とのイノベーション取り組み

横浜銀行アクセラレータープログラムへの参加
31件の応募から2件取り組みに向けた実証実験開始

→バングラデシュのマイクロファイナンス機関ネットワークを通じた水産用飼料市場開拓に向けた調査
→水産飼料の製造計画におけるAI需要予測

●次期基幹システム構築始動

拡張性と柔軟性とタイムリーな情報提供力で事業運営を支える経営管理システムを実現

→高精度の速報性高いデータを活用し、迅速な経営意思決定をサポート
→標準化・効率化により高度な業務推進を図る

飼料業界初

●統合報告書 11月発行

当社だからこそ実現可能な価値創造を可視化

→社会から信頼され続ける企業であるために、IR・ガバナンスの強化を図る

トピックス ESG/SDGsの取り組み

企業価値向上のため、社内外において積極的に活動

●日本財団_海と日本PROJECT主催 横浜の街のごみ拾いイベント参加

6月19日(土)
本社および
関係会社から
40名参加

●月刊誌 日経ESG 8月号 未来戦略インタビュー記事掲載

ESG/SDGs
の取り組みや
経営戦略
について
インタビュー
記事掲載

https://project.nikkeibp.co.jp/ESG/atcl/column/00006/071500062/

●農林水産省との連携

農林水産省「SDGs×食品産業」に
当社のSDGsの取り組みインタビュー
が掲載

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sdgs/

農林水産省「FCPこどもページ」にて
当社HP_食育・工場見学サイトが紹介

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/fcp/kodomo_page.html

●社内取り組み 「私のSDGs宣言」プロジェクト開始

全従業員が個人ごとにSDGsを
意識した行動を宣言！
実行することでSDGsを自分事
として捉え、意識改革を図る

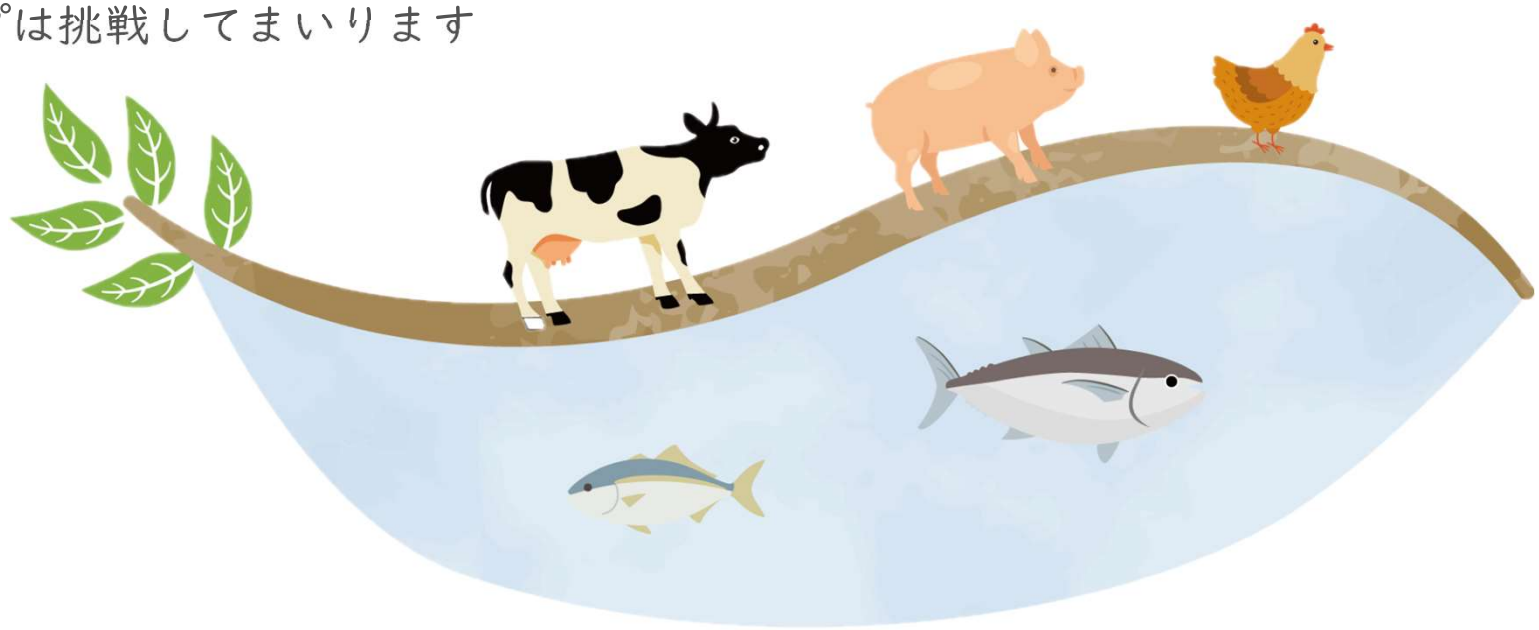
さいごに

すべてのステークホルダーのために、

フィード・ワングループが飛躍し続けるために、

業界と社会そして地球の未来の持続的な発展のために、

フィード・ワングループは挑戦してまいります



おいしさのみなもと

FEED ONE

本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではありません。
また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい。

当資料に関するご質問・お問い合わせにつきましては、弊社のIR代表アドレス宛
（ir@feed-one.co.jp）にご連絡ください。